

一般財団法人京都ユースホステル協会

2026年度事業計画

期間:2026年4月1日～2027年3月31日



“ Say Hi to the world ” ～旅の持つ力～

若者が世界（旅）の扉を開けて学びや発見に出会うために
ユースホステルはいつも彼らを応援していきたい

〒616-8191 京都市右京区太秦中山町 29 宇多野 YH 内
TEL: 075-462-2312 FAX: 075-462-2289
URL: <http://www.yh-kyoto.or.jp> E-mail: kyh@yh-kyoto.or.jp

目次

目次	1
はじめに	2
国際ユースホステル連盟採択基準	3
京都ユースホステル協会が目指すカタチ	
2026年度の重点取り組み	4
事業活動	
I. ユースホステル活動（協会事業）	5 - 6
II. 宇多野ユースホステル（指定管理事業）	7 - 8
III. ユースホステル関連活動（自主事業）	9 - 10
IV. 天橋立ユースホステル（施設運営事業）	11 - 12
V. 組織運営（協会総務）	13
予算概要	14 - 15
組織概要	16

はじめに

現在、終わりの見えないロシアのウクライナ侵攻やガザ紛争等、大国による自国第一主義や権威主義的な力や威圧による一方的な現状変更の試みは、国際秩序の混乱や経済、社会の不安や摩擦を深めております。力による問題解決が難しいことが示されています。力による解決ではなくソフトパワーによる国際社会の課題解決が求められております。

京都ユースホステル協会においても、ユースホステル活動の現代的な意義を表現し、ユースホステルらしい相互の交流や理解、多様性の尊重や寛容などを養う、地域が持つ固有の価値や文化、生活に触れ、それらを尊重する体験活動などを通して、若い世代の成長に貢献できる活動や施設運営を更に促進してまいります。

事業活動については、青少年の体験による成長や視野を広げるジュニアインターンシップや地域の安心安全に貢献する活動などを多様な活動団体と連携し、宇多野ユースホステルなどを拠点に企画すると共に、実施してまいります。

宇多野ユースホステルにおいては、物価上昇等の運営経費の増加等については、昨年の使用料金の改定により、一定の課題解決を図ることが出来ましたが、更なる魅力づくりや人材の補充、施設の長期に渡る維持修繕負担等の課題解決にも取り組んでまいります。また、本年は次期指定管理者の募集が行われます。ユースホステルが地域の課題等の解決にも貢献できる公的施設として、新たな役割を担いながら財政負担の少ない公的施設の運営を可能にする公的施設の新たなモデル構築にも合わせて取り組んでまいります。

食堂運営におきましては、食材費等の値上がりに対応した料金の見直しを行う他、合わせて魅力的で特色を持ったメニューの開発や改善に取り組み、持続的な運営に不可欠な収支や運営の改善に引き続き取り組みます。

天橋立ユースホステルにおいては、築 60 年以上が過ぎ、施設の老朽化が更に進み、今後の運営や施設改修等の課題について、現場の運営を委託する団体とも協議しながら今後の運営課題に対応してまいります。

先行きの不安が懸念され、変化を見通すことが難しい状況ですが、今後も職員をはじめ多くの方々のお借りしながら、様々な魅力的な旅の体験活動等の機会提供や施設の運営に取り組んでまいりますので、引き続き活動へのご理解とご協力、ご支援をお願いいたします。

専務理事 高田光治

ユースホステル活動の現代的解釈

『3つの原則と4つの価値基準』

《3原則》

I. 「旅する自由」「旅行者の平等」の原則

- ・ 手頃な料金の安全な宿泊施設の提供
- ・ 世界各地からやって来る人々に出会いの場を提供
- ・ 人種、国籍、肌の色、宗教、性別、階級、政治的信条に基づく差別を受けることのない宿泊
- ・ 違いや多様性の尊重
- ・ 障害者向けアクセス、奨学金／補助金での支援

II. 「学ぶ権利」の原則

- ・ 多様な文化的価値基準、人々、地域についての理解促進、好奇心の育成
- ・ 地域文化について学び、実地体験する機会を提供、間接教育の場／環境の提供
- ・ コミュニティへの参加意識（学習体験としてのコミュニティ参加）の促進
- ・ 人々／他の旅行者と長期にわたって出会う場の構築
- ・ 互いに学び合い、また他の文化や人との出会いからの学習

III. 「持続可能性に対する義務」の原則

- ・ 持続可能なツーリズム活動の推進
- ・ 財政的持続可能性／金銭的公平さ（給与）
- ・ 環境保護／二酸化炭素排出量の削減
- ・ 地域社会への貢献／フェアトレード

《4つの価値基準》

I. 利用し易さ（Accessibility）

質の高い宿泊施設をグローバルに提供することにより、旅行の促進および普及に努める。
安全かつ手頃な料金／誰でも利用出来る施設提供／旅に関する情報とサービスを提供

II. 一体性（Inclusivity）

違いや多様性を認め、誰もが自分の価値を実感し、一体感を持てるよう努める。
すべての人に開放／違いや多様性の尊重

III. 学習と理解（Learning and Understanding）

次のことを通じて学習や理解の促進、支援に努める。
旅を通じて多様な文化、人々、地域について学習／責任あるツーリズムの促進／課外活動への支援／
コミュニティの一員としての活動

IV. 持続可能性（Sustainability）

次のように環境的にも社会的にも責任ある方法で行動する。
二酸化炭素排出量およびエネルギー消費の削減／リサイクル活動を通じて廃棄物の量を制限／
地域社会活動への貢献と参加／スタッフが働き、成長し、自分の価値を実感できる場の設定／
志を同じくする組織とパートナーシップを構築

say **HI** to the world - 旅の持つ力 -

若者が世界（旅）の扉を開けて 学びや発見に出会うために
ユースホステルはいつも彼らを応援していきたい

約 100 年前、経済的格差や公害問題などの健康被害による学びや気づきの機会損失を憂いたドイツ人教師「リヒャルト・シルマン」が、そういった社会環境の中で子ども達を野外に連れ出し、「移動教室」という新しい手法で子ども達の学びや気づきを取り戻しました。ユースホステル運動の始まりです。

それ以降も社会的・経済的に深刻な課題は時代の中で起こってきましたが、近年ではコロナ禍は取り分け世界を大きく変えた出来事でした。ストレスや閉塞感を感じる生活の中で、人と人とのつながりが希薄化し、特に青少年にとっては貴重な経験や体験の機会を失うことになりました。

現代では、便利で効率的なコミュニケーションツールとしてソーシャルメディアが日常に浸透していますが、その反面、人の成長に大切な直接的な触れ合いの機会が減少しているように感じます。

そこで、私たちはユースホステル運動の原点（スピリット）に立ち帰り、新しい学びや気づきにつながる直接的な交流・体験の機会を提供することで、ユースホステルとしての意義や役割を果たしてまいります。

2026年度の重点取り組み

- ① 多くの市民や旅行者からその価値や役割が支持され応援されるように、公の施設としての宇多野ユースホステルの可能性を広げ、新たなモデルづくりに取り組み実施に努めます。
- ② 公益的な事業や取り組みを支える収益を生み出す食堂の収支や運営の改善に向けて、料金改定後のメニューの工夫や運営状況の把握・管理、見直しに継続して取り組みます。
- ③ 業務の整理や新たなシステムや外部事業者の活用などを含めた事業や運営の効率化、体制の見直しなどを進め、更なる改善を進めることができる体制や基盤を整えます。
- ④ 2027年度からの次期指定管理者の応募に向けて、様々な“拠点機能”を盛り込んだ特徴ある施設運営プランを計画し、取り組んでまいります。

事業活動) 1. ユースホステル活動 (協会事業)

一般財団法人京都ユースホステル協会は、ユースホステルの理念に基づき、人種・国籍・文化・宗教等の違いを越えてすべての人が安心して集い、学び、交流できる場を創出する事業を展開してきました。今年度は特に宇多野ユースホステルをそのフィールドとして活用し、京都を訪れる国内外の旅行者や地域市民をつなぎ、多文化理解や相互理解を育むとともに、地域文化や環境に配慮しながら持続可能な観光の推進を図ります。また、多様な文化や価値観に触れる若い世代の学びや寛容、国際感覚の醸成に寄与し、平和の文化や多様性を育む拠点としての役割を果たしてまいります。

[事業分野別目標]

- ① 地域団体や NPO 等との連携した青少年事業企画を 5 つ以上実施する。
- ② 若者を対象とした宿泊型プログラム企画を 3 つ以上実施する。
- ③ 宿泊される海外グループと地域市民との国際交流事業企画を 3 つ以上実施する。

[活動内容]

1. 若者の学びと社会参加の機会創出

京都の若い世代の多様な価値観への理解と成長を促進します。ボランティア活動、野外活動プログラム、地域連携事業等を実施し、次世代の社会性を育む拠点としての機能を高めます。

- 中高生を対象とした長期 YH 滞在プログラム「ジュニアインターンシップ体験」
- 課題を持つ青少年に旅を贈る事業の展開「Say Hi for Peace～YHから旅を贈ろう」
- 子どもたちだけの旅を促す宿泊プラン「フレンドステイ」
- 大学生インターンシップや特別支援学校等の就労体験の受入
- 小学生を対象とした自然体験プログラム「ネイチャーキッズ」(年 11 回)
- 幼児から中学生を対象とした理科実験プログラム「ガリレオサイエンス教室」

2. 多文化共生と国際交流の推進

国内外の若者・市民が出会いと交流の場を通じて、相互理解や平和の文化を育む国際交流拠点としての役割を強化します。

- 海外のインターンシップ生の受入れと地域市民や宿泊者との触れ合いや交流の促進
- 学校訪問やユースホステル内での海外青少年グループと日本の青少年グループとの相互交流を促進するアレンジの実施

3. 持続可能で地域に貢献する観光の推進

地域社会や環境に配慮した持続可能な観光の普及に努め、地域経済やコミュニティに貢献する事業を展開します。地元事業者や団体と連携し、地域文化・伝統を尊重した旅の価値を発信することで、責任ある観光の実践と普及を図る。

- 地域の文化を深く知る「まいまい京都」との旅行企画の連携
- 新しい地域の観光文化資源を創造する「京都モダン建築祭」への参画



事業活動) II. 宇多野ユースホステル (指定管理事業)

昨年度、これまで運営上の懸案であった料金改定が実現した一方、長期的な施設修繕の費用負担も発生することとなりました。そうした中で、これまで以上に持続可能な財源の確保や利用促進のための運営への努力が求められております。その為には、低廉ながらも従来以上に安心・安全で快適な宿泊環境を整え提供するとともに、多様な人々が出会い交流する国際的な宿泊拠点となるよう取り組みを進めます。

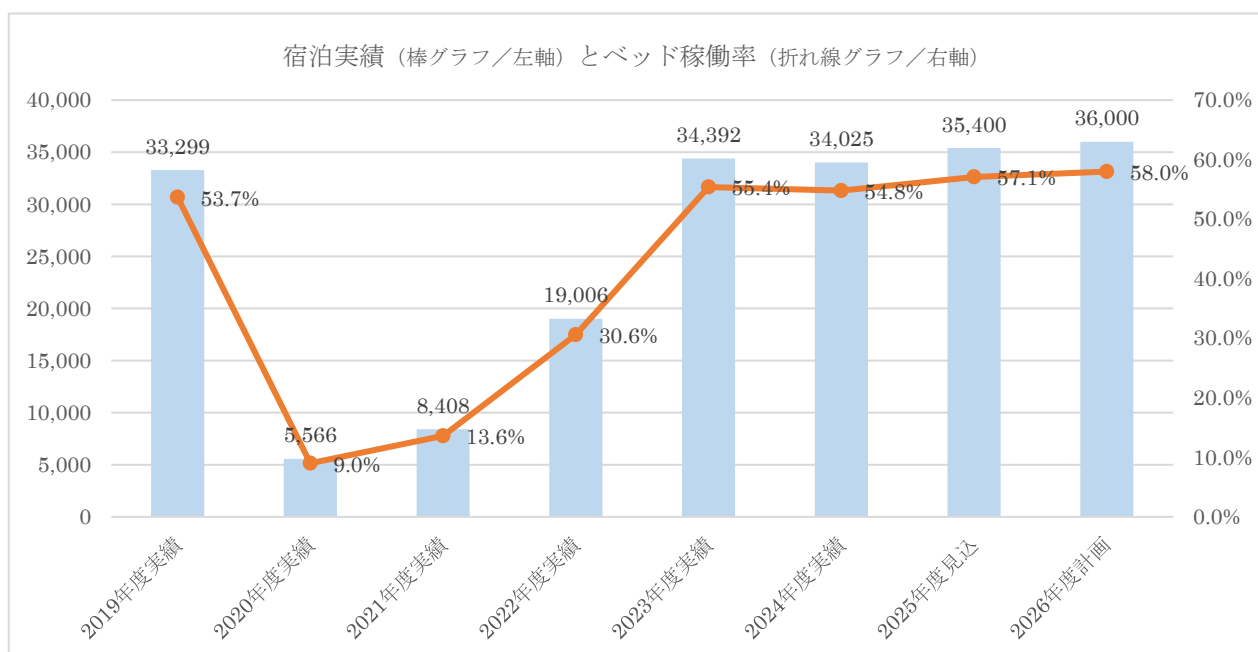
また、地域の慣習や文化を尊重した滞在の促進、魅力的な地域情報の提供、災害時の受入拠点としての機能の強化等を通じて、地域社会の安心・安全と持続可能な観光の推進に貢献できる運営に取り組めます。

あわせて、地域の公益的な役割を担いながら効率的で財政負担の少ない持続可能な公的施設の運営モデルが確立できるよう取り組んでまいります。

[事業分野別目標]

(対 2025 年度実績見込み)

- | | | |
|---------------|------------------|---------------|
| ① 年間宿泊実績/稼働率 | : 36,000 名/58.0% | +600 名/101.7% |
| ② 年間海外学生団体数 | : 60 団体 | +4 団体 |
| ③ 年間スポーツ団体利用数 | : 90 団体 | +10 団体 |



[活動内容]

1. 低廉ながらも安心・安全で居心地の良い滞在環境の維持と利用促進

すべての利用者が安心・安全に滞在できる施設運営を心がけます。また自然災害時の帰宅困難者や地域住民受入など安心・安全拠点としての役割を果たします。

小規模なスポーツ団体にも利用いただけるための誘致活動の強化

- 障がい者グループや特別支援学校など配慮が必要な団体へ受入対応の検討や促進
- 京都市民対象とした市民料金の PR や食事割引などの宿泊キャンペーンの実施

2. 地域文化・社会との連携強化

地域の慣習・文化・生活への理解を促す情報提供を充実させ、地域社会と調和した滞在を推進します。地域団体・学校・事業者と連携した体験プログラムや交流企画を実施し、地域に開かれた施設としての機能を強化します。

- 地域の大学ゼミ宿泊の積極的誘致やユースホテル内での交流や体験企画の充実
- 地域や若者と連携した右京区や京都市北西域の情報と魅力発信
- 京都のみならず海外の文化紹介など異文化理解にもつながるイベントの実施

3. 公的施設モデルとしての持続可能な運営

公的役割を担いながらも財政負担の少ない持続可能な施設運営モデルの構築を目指します。特に大中規模の施設改修のための費用を引き当てる為にも一層の運営の効率化を進め、次世代型公的宿泊施設のモデル形成に取り組みます。

- 予約管理システムの活用によるデータ分析およびチェックインや統計処理の簡素化
- 先を見据えた施設修繕のための引当金の充当とあわせて、魅力ある施設づくりのための計画や積極投資



事業活動) III. ユースホステル関連活動 (自主事業)

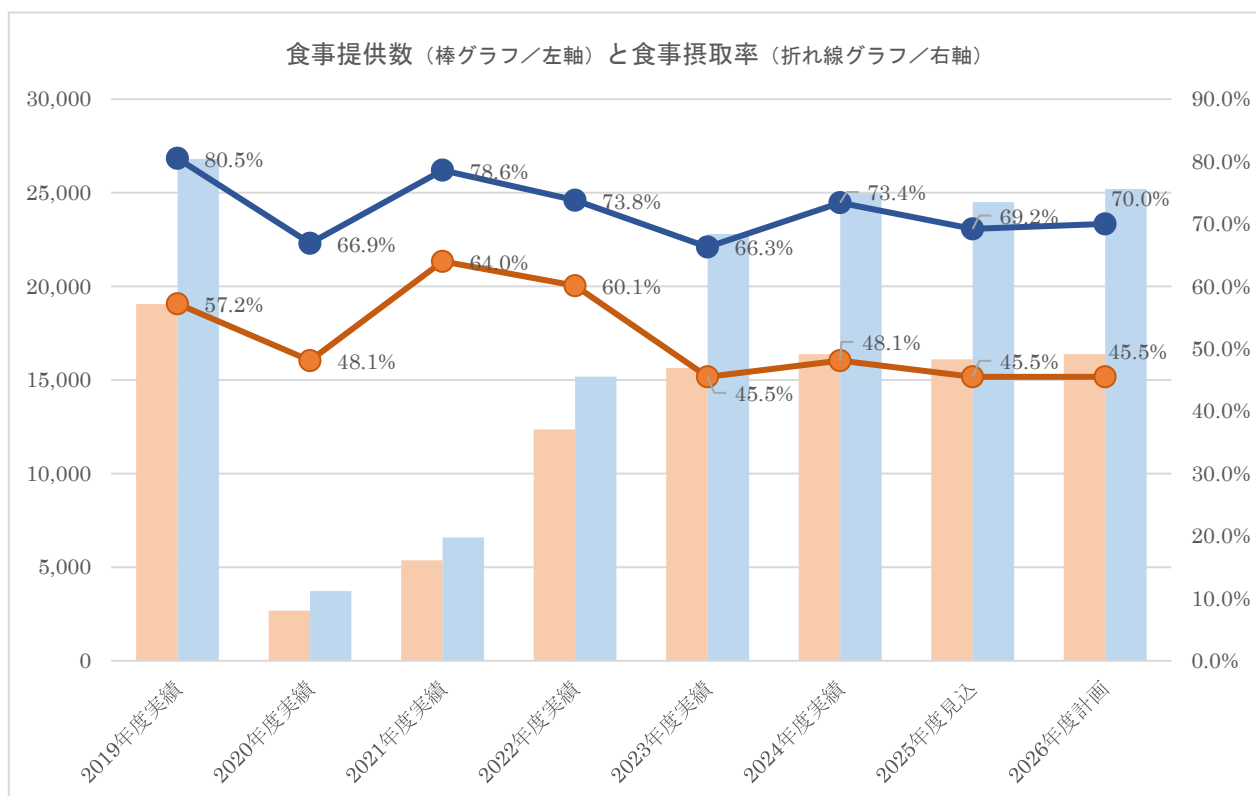
近年の旅の中での泊食分離傾向と物価高騰による影響が顕著に表れている食堂部門ですが、まずは効率的で持続可能な運営体制を確立し、安定した収益改善を目指します。

旅の中での食事は、滞在の満足度や施設全体の魅力向上に寄与する重要な事業であると考えており、多様な文化や食習慣に配慮した食事提供や食体験の創出を通じて、国際交流の場としての役割を担うとともに、地域食材の活用による地域経済への貢献を図ります。

[事業分野別目標]

(対 2025 年度実績見込み)

■ 年間食事提供数：夕 食	16,380 食	+280 食 / 101.7%
摂取率	45.5%	± 0%
朝 食	25,200 食	+700 食 / 102.9%
摂取率	70.0%	+0.8%



[活動内容]

1. 収益性向上と効率的運営の推進

利用状況に応じた柔軟な営業体制、メニュー構成の見直し、団体対応力の強化等により売上向上を図ります。特に地域の料理学校からの協力も得て意見もいただき、フードロス削減や仕入管理の最適化を進め、安定的かつ持続可能な運営を目指します。

2. 安全・安心で満足度の高い食事提供

宿泊者および一般市民に対し、安全・衛生管理を徹底した食事を提供し、快適な滞在体験の向上に寄与します。多様な食文化・宗教・健康志向に配慮したメニュー対応を進め、国内外の利用者に対応した食堂運営を行います。

3. 京都らしさと国際性の発信

食事とあわせて物品販売等でも京都らしい食文化の内容を積極的に取り入れ、京都らしさとあわせて世界の缶詰やお菓子、また、閑散期におけるワールドディナーの提供など、世界の多様性豊かな食体験の提供を行います。



事業活動) IV. 天橋立ユースホステル (施設運営事業)

京都府北西域のユースホステル活動の拠点として 3 年目となる運営委託を継続し、運営団体の強みと周辺の自然環境を活かしたアウトドア・アクティビティと宿泊をセットにした宿泊体験プランを提供していきます。

また、数少ない日本海沿いのユースホステルとして、旅行者の滞在拠点としての役割の維持や施設の活用に努めます。

施設面では設置から 60 年以上が経過し、施設や設備の老朽化が進み修繕や改修費用等の負担が増加してきており、今後の維持活用のための大規模修繕等の発生などの対応やリスクについて、運営委託を行っている団体と協議を行ってまいります。

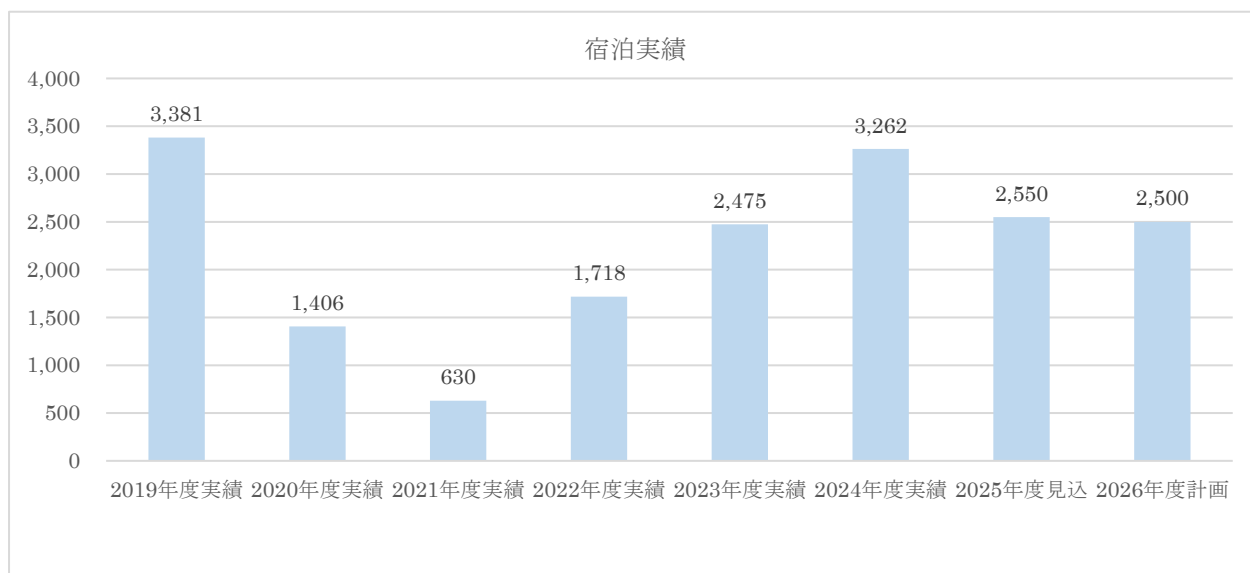
合わせて、京都府や宮津市、地域の団体とも連携しながら、将来の地域振興等に沿った京都府北部でのユースホステル運営について、支援の可能性や運営継続についても探ってまいります。

[事業分野別目標]

- これまでの子ども向けや野外体験等のノウハウやネットワーク等の他、天橋立エリアの海、里、山の自然や景観、歴史文化等の魅力を活かした事業やイベントの継続実施

(対 2025 年度実績見込み)

■ 年間宿泊者数	: 2,500 名	△50 名
■ 年間食事提供数		
夕 食	900 食	+50 食
摂取率	36.0%	+2.7%
朝 食	1,500 食	+280 食
摂取率	60.0%	+12.2%



[活動内容]

1. 利用状況に合わせた効率的な運営の取り組み

繁忙期や閑散期、週末や平日等の利用等に合わせた休館日の設定などにより、運営に係わる労務環境の改善や運営の効率化に取り組みます。

また、野外活動等の団体や地域の観光協会等とのネットワークを活かした利用の誘致や特色のある宿泊プラン等の企画などにより、宿泊者増を図ります。

2. 野外活動等のスキルを活かした特徴あるプログラム開発や提供

- 夏休みや秋・冬休みに SUP やカヤック、フィッシングなどの海を楽しむ事業を展開。
- 冬には世屋高原中心に雪を楽しむプログラムの実施。
- 世屋高原の共生サイト登録を受けた運営実行委員に参画し、年間を通じた世屋高原流域の自然体験活動を運営予定。



事業活動) V. 組織運営 (協会総務)

昨年7月には宇多野ユースホステルの利用料金改定が施行され、それに伴い、長らく見直しが出来ていなかった職員の処遇改善を行い、新たに長期修繕費用の引当ても開始いたしました。

また、今年度からは本格的に施設・設備等の補修費用の引当てを行ってだけでなく、公的施設としての役割や意義をどう果たし発信していくかが、今後の運営継続に大きく影響することとなります。

その指定管理期間も今年度末で満了を迎えるため、この夏には新たな指定管理者応募が行われる予定です。応募に当たっては、これからの“公的施設における行政負担の少ない運営モデル”となるスタイルを検討し、また“旅行者や地域との間で価値や機会の提供と還元が循環する仕組み”を提案していきます。

日常の運営においては、特に職員の確保が困難な中で今までと同様に職員をメインに運営体制を整えることが難しく、また経費的にも負担の増加が見込まれます。そのため、アルバイトやインターン等で充足させ、任せられる業務は任せ、職員はより責任ある業務に従事するなど、作業の効率化や外部発注と合わせ、役割の見直しにより、全体として計画する取り組みが遂行できる運営体制を整えます。

[事業分野別目標]

- 2027年度からの次期指定管理者としての選定の獲得
- 柔軟な契約形態を整えることにより、様々な形での人員確保につながる仕組み作り



Kyoto Utano Youth Hostel 京都 / 宇多野ユースホステル

予算概要

[予算概況]

基幹事業である宇多野ユースホステルは2025年7月に利用料金改定が施行されましたが、事前に完了していた予約に対しては旧料金が適用される経過措置対応となっております。2026年度からは全ての予約において現行料金（改定料金）が適用となるため、一定の利用料収入の増収が見込めます。また、年間120日を上限に設定することが出来る繁忙日料金（通常料金の20%増しまで可能）については、年末年始やゴールデンウィーク、お盆などは+500円、その他の休前日等は+300円と2段階の繁忙日料金を設定し、また食事代だけでなく宿泊費においてもキャンセル料の徴収を本格的に開始し、ユースホステルとして適正な価格設定と運用の中で収入増を図ります。

経費面においては、独自で引当てが必要となる大規模修繕費用は年間1,240万円（対前年比133.3%）となり、日常的な修繕のための予算計上額（450万円）と京都市への納付金（500万円）を合わせると2,190万円となり、宇多野ユースホステルの経常収益の14.6%に至ります。

その他、アルバイト確保のための処遇見直しや広報・営業活動、経年劣化が見られる複合機の入れ替えなどの費用も計上しており、その結果、宇多野ユースホステル会計においては156万円の経常増減額としております。

宇多野ユースホステルの食堂運営は年々厳しい状況となっており、2025年度の物資頒布会計・YH関連事業（食堂運営／物品販売）は赤字となる見込みです。

そのため、グループや団体を主な対象として、夕食料金は2025年6月に1,800円（550円アップ）に、朝食料金は2026年3月に1,200円（350円アップ）に改定し、併せてメニューの見直しを行いました。外部のアドバイザーの意見も踏まえながら、食事提供数を維持・増加させて収支改善に努めます。

旅行事業を含む物資頒布会計は、1,458,000円の経常増減額としております。

一般会計の協会運営（管理費）と会員事業は、各事業会計から運営費を負担しているため収支均衡となっております。一般会計の青少年事業については、ユースホステル協会として取り組みたい青少年を対象とした事業をスタートさせるために、育成事業費に115万円の費用を計上しております。

その他、天橋立ユースホステルは利用料収入と同額を管理業務委託料としているため、収支均衡の事業会計となっております。

最終的に、2026年度の当協会全体の経常増減額は1,262,000円、正味財産期末残高は72,647,122円を計画しております。

〔経営実績の推移〕

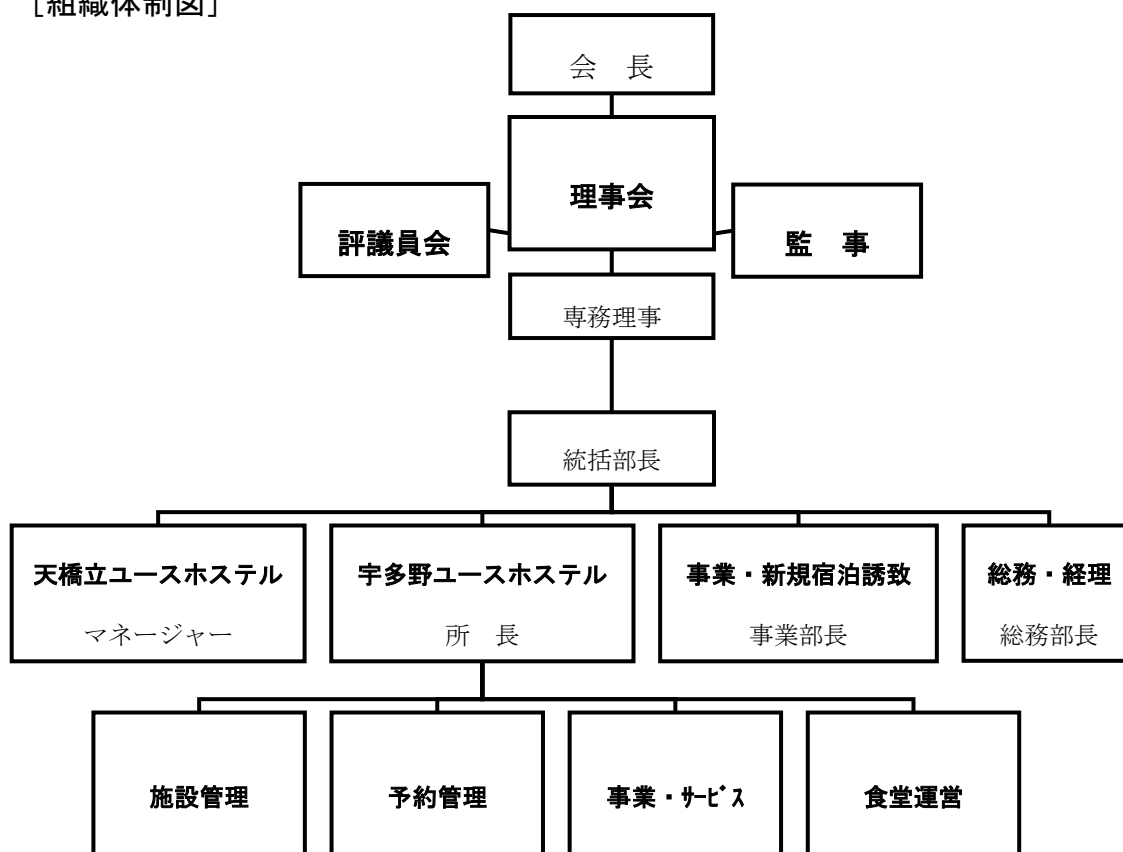
	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度見込	26年度予算
経常収益（売上）	95,289,810	131,099,672	190,717,546	203,117,199	215,317,716	239,747,000
ユースホテル活動及び関連活動	31,639,084	38,875,848	52,128,879	54,525,632	56,609,997	66,066,000
指定管理業務及び YH 運営	55,633,992	83,494,643	130,619,094	137,141,531	146,667,139	161,700,000
組織運営業務	8,016,734	8,729,181	7,969,573	11,450,036	12,040,580	11,981,000
経常費用（費用）	105,938,254	146,617,547	184,138,570	199,211,243	213,504,611	238,485,000
ユースホテル活動及び関連活動	24,168,098	40,466,406	53,203,479	55,418,643	59,118,658	66,377,000
指定管理業務及び YH 運営	74,595,559	97,618,284	122,866,230	133,273,126	141,166,860	160,137,000
組織運営業務	7,174,597	8,532,857	8,068,861	10,519,474	13,219,093	11,971,000
当期経常増減額（経常利益）	▲10,648,444	▲15,117,875	6,578,976	3,905,956	1,813,105	1,262,000
経常外増減額（経常外利益）	▲9,311	▲181,272	0	0	0	0
当期正味財産増減額（純利益）	▲10,657,755	▲15,699,147	6,578,976	3,905,956	1,813,105	1,262,000
正味財産期末残高	74,786,232	59,087,085	65,666,061	69,572,017	71,385,122	72,647,122

組織概要

[組織]

現状を打開するために直面するピンチをチャンスと捉え、これまでの枠を超えた連携や協働による新たな取り組みへ挑戦し、組織や個人の更なる成長と実績の回復や向上を目指します。

[組織体制図]



[協会役職員数]

評議員：6名、理事：7名、監事：2名、職員：30名（アルバイト・パート含む）

[協会名]	一般財団法人 京都ユースホステル協会
[代表者の役職氏名]	会長 堀場 厚
[財団設立]	1968年2月12日 ※ 2011年8月1日（一般財団法人へ登記移行）
[協会所在地]	京都市右京区太秦中山町29 宇多野ユースホステル内
[電話番号]	075-462-2312（代表）